

琉球大学学術リポジトリ

平成20年度（2008）

障害児教育実践センター事業報告

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属障害児教育実践センター 公開日: 2009-06-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/10810

平成20年度（2008）障害児教育実践センター事業報告

本センターは発達支援を必要とする子どもたちへの教育に関する基礎的研究、臨床的研究、そして教育方法の開発等を行うとともに教育相談や研修活動を通じて地域社会に貢献することを目的としている。平成19年4月より特別支援教育がスタートし、試行錯誤の取り組みが学校現場において行われている。特別支援教育に対する現場からの本センターへの期待はますます大きくなることを見据えて、平成18年10月より現場での取り組みをサポートするとともに子どもたちへの支援を行いながら学生の実践教育を行うトータル的な実践活動『実践トータル支援活動』をスタートさせた。本年度10月で3年目に入り、他機関との連携も深めながら、地域貢献および学生教育の発展に努めている。

本センターは本年度においても発達支援を必要とする気がかりな子どもたちへの教育や関わりのあり方を考える上での方法や資料の提供、実践事例研究会、公開セミナー、研修会などを開催した。また、教育事務所、教育委員会、学校、特別支援学級などの教育機関、附属小・中学校への連携による支援、大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会との共同研究を行った。

関係機関および附属小・中学校への連携支援および共同研究

以下の関係機関への支援、および連携による共同研究、共同支援を行った。教育事務所、教育委員会、学校、特別支援学級などそれぞれの関係機関の規模、形態、ニーズに合わせた連携の在り方を模索した。

- ①機関名：八重山教育事務所
活動名：島嶼地域出張教育相談支援
活動内容：発達相談、教育心理相談、学校訪問相談
- ②機関名：八重山教育事務所
活動名：トータル支援教室の出前支援

活動内容：トータル支援出前教室、事例研究会による特別教育支援員実践力養成支援

- ③機関名：読谷村教育委員会
活動名：特別支援教育支援員養成支援
活動内容：トータル支援教室における特別支援教育支援員の実践力養成支援
- ④学校名：浦添市立沢岬小学校
活動名：トータル支援
活動内容：トータル支援教室における子どもたちへの支援
- ⑤学校名：沖縄市立中の町小学校情緒障害学級
活動名：トータル支援学級応用支援
活動内容：トータル支援教室をモデルにした特別支援学級の実践応用研究支援
- ⑥学校名：附属小学校
活動名：特別支援教育校内委員会の実施
- ⑦学校名：附属中学校
活動名：気がかりな子どもへの実態調査、校内研修の実施
- ⑧組織名：国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会
課題名：小学校教員養成プログラムにおける特別支援教育スタンダードの開発

1. 実践教育・臨床支援活動

中核の活動である『トータル支援教室』では、大学教員、学生、院生、現職教員等が参加して発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちの参加による実践教育支援、及び実践研究を目的として定期的に集団支援、個別支援、連携支援、子育て支援を行った。特に本年度は教育委員会との連携による特別支援教育支援員の養成の取り組みおよび近接専門領域の学生参加による活動を行った。この『トータル支援活動』は地域支援を行うとともに学生、院生、現職教員にとっては特別支援教育のための実践トレーニングが可能となる活

動である。障害児教育実践センターは発達支援における地域貢献及び特別支援教育に貢献する教員を育てることを大切な課題として位置づけ、実践教育・臨床支援活動に取り組んでいる。

(1) 個別実践教育・臨床活動

本センターでは、個別臨床活動支援として母親面接、教員面接、子どもへの実践教育臨床支援を行っている。その支援内容は発達支援、教育学習支援、適応支援、子育て支援の4つ柱を中心としている。8月23日の特別支援セミナーにおいて試行したアンケート結果において当センターに対する期待の大きさが伺われた。学校現場では支援体制が整ってきたが、その支援が機能するかどうか今後の特別支援教育の課題である。相談機関として地域貢献の必要性を訴える要望と同時に、学校内部の取り組みを機能させるための支援についての期待があがった。学校現場は専門性の高い信頼できる相談機関を求めており特別支援教育のスタートによる子どもたちの発達支援や学校現場の戸惑いへの支援が課題となっている。本センターは新しい施設が本年度中には完成し、来年度から使用が可能となる予定であり、より一層の地域貢献を目指している。

(2) 集団実践教育・臨床活動

昨年度は研究指定校の浦添市立沢岬小学校に在籍する子どもたちを中心に集団適応を困難とする子どもたちに『トータル支援教室』に参加してもらった。この活動は子どもたちを支援するととも

に大学と小学校が連携することにより特別支援教育の支援体制のより良い方向性を求める活動である。昨年度は、沢岬小学校との連携により個別支援担当スタッフとの事例研究会も行われた。子どもたちに対して細やかな支援が必要になるにつれて地域の支援機関とのネットワークの輪を広げていくことが課題となっていた。そこで、本年度は引き続き、浦添市立沢岬小学校の子どもたちに参加してもらうとともに、医療法人おもと会の言語聴覚士養成専門学校の学生も加わり、多面的な視点をもったメンバーが取り組みに参加することになった。また、本年度は、沖縄市立中の町小学校の情緒障害学級でトータル支援教室で行った取り組みを行うことにより、現場に還元していくことにも取り組んだ。

また、このトータル支援教室は、学生、院生、現職教員にとっては特別支援教育のための実践トレーニングが可能となる活動である。従って、センターの活動へ参加することによりひとりひとりの子どもたちと関わる視点を学んでもらい、その成果を、現場の特別支援教育へ還元することを目的としている。本年度は、読谷村教育委員会の支援員が実践力を養成する目的で活動に参加し、センター主催の特別支援セミナーにおいて、その実践の成果を報告した。

(3) 実践教育・臨床支援ケースの概要

平成20年1月から平成20年12月までの1年間の月別セッション数を表1に示した。来所相談、訪問相談を合わせて、セッション数は総計466セッ

表1 臨床活動 セッション数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
親面接（カウンセリング含む）セッション数	4	2	6	5	9	6	5	4	5	16	16	4	82
教員面接（スーパービジョン含む）セッション数	15	17	13	14	18	14	15	14	15	19	19	16	189
子どもへの発達・教育学習・適応支援（心理療法含む）セッション数	2	3	4	2	3	2	3	0	4	4	1	0	28
実践トータル支援プログラム（個別支援）セッション数	22	10	0	10	20	20	18	0	9	17	17	8	151
実践トータル支援プログラム（集団適応支援）セッション数	2	1	0	1	2	2	2	0	1	2	2	1	16
セッション総数	45	33	23	32	52	44	43	18	34	58	55	29	466

ションになった。昨年度は541セッションであったので、75セッション減少した。保護者の面接が70セッションの減少、実践トータル支援プログラムが47セッションの減少となったことが総セッション数の減少の要因である。しかし今年度は教員面接が昨年度に比べ60セッション増加した。積極的に学校や保育園へ出向き、教員への面接依頼を受けて地域の学校に重点を置いた支援を行ったことが要因である。学校において特別支援教育への取り組みが見られるようになり、学校のなかの子どもたちへの具体的な支援の在り方についての相談依頼が増えたことが教員面接が増えたひとつの要因である。来年度はセンターの相談室、プレイルームを改装、整備し、さらに地域に貢献していく方針である。

(4) 実践教育・臨床支援ケースの診断別内訳

表2には診断別内訳を示した。相談ケースで最も多い障害がアスペルガー障害であり、約24.7%を占めて他障害より若干多い。注意欠陥多動性障害（ADHD）、精神遅滞（知的障害）、広汎性発達障害（自閉症）、学習障害はほぼ同数の相談を受けた。

表2 臨床活動 診断別内訳

診断名	事例数
アスペルガー障害（高機能自閉症）	18
注意欠陥多動性障害（ADHD）	13
精神遅滞（知的障害）	12
広汎性発達障害（自閉症）	11
学習障害（LD）	10
情緒障害（虐待、緘黙、不登校含む）	6
聴覚障害	1
ダウン症候群	1
境界知能	1
計	73

(5) 実践教育・臨床支援ケースの地域別支援内訳

相談ケースの地域別内訳を以下の表3に示した。昨年と同様に宜野湾市、那覇市、浦添市などの大

学周辺の市町村からの相談（約46.6%）を多く受けた。また、継続支援を行ってきた八重山地区では、地区一人の臨床心理士の本土への転勤、特別支援教育の中心となる先生の本島への異動が重なり、専門的立場で支援を行う人材が不足した。発達障害のある子どもの保護者の不安は高くなり、地元の新聞（八重山毎日新聞1月19日）にも大学の支援の必要性についての記事が取り上げられた。今年は、県外から発達支援の第一人者の山上雅子（旧京都女子大学教授）氏に協力をお願いし石垣巡回相談を行ったため、八重山教育事務所を通じた相談（46.6%）を多く受け、重点的な支援を行うことができた。那覇市教育委員会からの支援依頼が増えたがセンターの移転により相談を受けることを控えた。現在、10事例は定期継続支援を行っている。

表3 相談ケースの地域別内訳

相談ケースの地域別内訳	事例数
宜野湾市	20
那覇市	8
浦添市	6
沖縄市	2
中城村	1
豊見城市	1
与那原町	1
石垣市	21
与那国町	13
総計	73

2. 社会教育活動

平成18年10月より支援を必要とする子どもたちと特別支援教育について学ぶ意欲のある学生、院生、現職教員、さらに子どもたちの通う学校がともに関わりをもつ実践トータル支援教室をスタートさせた。専門機関としての大学の障害児教育実践センターと公立の小学校とが連携して子どもたちを支援することがこの活動のねらいのひとつである。

(1) 実践トータル支援教室

保護者や学校から軽度発達障害児における特別な支援を必要とする子どもたちの実践支援の要望を受けて、実践トータル支援活動をスタートさせた。以下のような目的で活動している。

- ①支援を必要とする子どもたちやその保護者への支援
- ②支援活動を通して子どもたちやその保護者への特別支援教育について学ぶ学生や現職教員への実践教育支援
- ③学校との連携支援
- ④支援活動を通して子どもたちについての理解の方法、支援の方法など、実践に役立つ支援に関する研究

支援活動は、学部学生、大学院生、保育士、小学校、中学校、特別支援学級、特別支援学校の現職教員の参加により子どもたちへの支援として個別支援活動と集団支援活動、保護者の支援を行っている。以下のような支援課題と目的で活動している。

1) 個別支援活動

発達支援においては関係性に基づいた「生きる力を引き出す」ことを目的とし、教育学習支援においては発達の視点に基づいた「生きる力を育てる」ことを目的としている。

2) 集団支援活動

適応支援においては情緒の豊かさやメンタルケアに基づいた「生きる力を支え活かす」ことを目的としている。

3) 子育て支援活動

子育て支援においては子どもをもつ親の気持ちを支え、子どもたちの「生きる力を大切に」子育て支援を目的としている。

水曜日、月2回のペースで琉球大学50周年記念館を会場として以下のような多くの参加者により支援活動を行った。ここでは2008年1月から12月までの第28回から第42回までの活動を示す。また、その活動の内容を表4に、支援活動参加者数を表5に示す。

表4 集団支援活動の内容

回	活 動 日	活 動 内 容
28	2008年1月16日	・お正月クイズ&カルタ
29	2008年1月30日	・ダンボールキャタピラ
30	2008年2月6日	・だるまさんが転んだ&玉入れ
31	2008年4月23日	・チーム名を決めよう&はないちもんめ
32	2008年5月14日	・新聞紙に何人乗れるかな?・新聞レスキュー列車
33	2008年5月28日	・ツユコレ 世界に一つだけの傘&カップ
34	2008年6月11日	・読み聞かせ絵本〜つるちゃん〜
35	2008年6月25日	・うちわパタパタぶわミントン
36	2008年7月9日	・遊べるおりがみ
37	2008年7月23日	・ミッション イン オキナワ
38	2008年9月10日	・みんなでエイサー
39	2008年10月22日	・コラージュ
40	2008年11月12日	・紙でバーン、ボールでドーン
41	2008年11月26日	・さわりごちがかかったよ
42	2008年12月10日	・やってきた ふうせんボワボワクリスマス

表5 支援活動参加者数

参加者数 活動日	子ども	親	学部学生 ・特別専 攻科	他学部 学 生	院 生	特別支 援教育 支援員	近接領 域他大 学学生	現 職 教 員	近接領 域の専 門家	センター スタッ フ	合 計
第28回 1月16日	12	11	9	2	4	0	0	8	0	1	47
第29回 1月30日	10	10	9	2	4	0	0	9	0	1	45
第30回 2月6日	10	10	9	2	4	0	0	8	0	1	44
第31回 4月23日	10	9	17	0	11	11	14	8	4	1	85
第32回 5月14日	10	10	13	1	11	6	9	8	3	1	72
第33回 5月28日	10	10	12	1	11	6	8	8	2	1	69
第34回 6月11日	10	10	13	1	11	6	7	10	3	1	72
第35回 6月25日	9	9	13	0	10	6	7	9	2	1	66
第36回 7月9日	9	9	13	1	11	6	4	9	2	1	65
第37回 7月23日	9	9	12	0	10	7	3	9	1	1	61
第38回 9月10日	9	9	13	0	11	7	3	10	1	1	64
第39回 10月22日	8	8	13	6	8	0	3	7	0	1	54
第40回 11月12日	8	8	12	6	7	0	4	9	0	1	55
第41回 11月26日	9	9	13	6	8	0	5	9	0	2	61
第42回 12月10日	6	6	16	5	6	0	5	9	0	1	54

(2) 公開セミナーと実践トータル支援プログラムの研究成果報告

地域社会への貢献を目的に公開セミナーおよびセンター活動の実践研究成果の報告を行った。セミナーは国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会が後援となった。神野秀雄（愛知教育大学）氏、石川雅健（愛知学院大学教授）氏をお招きすることができた。基調講演を神野秀雄（愛知教育大学）氏から、研究成果の報告へのコメントは、神野秀雄（愛知教育大学教授）氏、石川雅健（愛知学院大学教授）氏、両先生から頂くことができ、参加者、学生、支援員にも爽りのあるセミナーとなった。

特別支援の実践研究報告は集団支援、個別支援、連携支援の各支援部門の担当者からの報告を行った。学校および教育関係機関を含めた各領域の専門機関からの参加者に実践から学ぶ教育の機会を

提供することができた。本センターにおいてもアンケートによる地域のニーズの収集や活動への関心の度合いを確認することができた。現職教員、保育士、保護者のみならず、市町村教育委員会から多くの特別支援教育に熱心な関係者の参加を得ることができ、センターの取り組みへの関心の高さを感じた。また、教育の領域を超えて医療や福祉の多くの専門家の参加が見られたことは今後のセンターを拠点としたネットワーク作りの発展の可能性を感じさせるセミナーとなった。この公開セミナーは新聞報道（沖縄タイムス社8月28日に掲載）にも取り上げられ、多くの反響を得た。

公開特別支援セミナー 後援 国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会『支援を必要とする子どもたちの理解と実践トータル支援活動』・実践トータル支援活動の研究報告

司会：浦崎 武：障害児教育実践センター専任

コメント：神野秀雄、石川雅健

個別支援 実践報告 1

研究報告者：津波佳和：沖縄県立鏡が丘養護学校
琉球大学教育学研究科大学院

実践報告 2

研究報告者：新垣佳代子：南城市立大里南小学校
琉球大学教育学研究科大学院

集団支援 実践報告

研究報告者：武田喜乃恵：琉球大学教育学研究科
大学院、瀬底正栄：那覇市立松島小学校、琉球大
学教育学研究科大学院

連携支援 実践報告

研究報告者：宜保健：読谷村教育委員会、読谷村
教育委員会特別支援教育支援員

・講演

講師と演題：

神野秀雄（愛知教育大学）

『支援を必要とする子どもたちへの寄り添いによ
る発達支援』

日 時：8月22日 土曜日 13時～18時

会 場：琉球大学法文学部 新講義棟215教室

参加者：約130人

(3) 離島支援活動

地元の新聞報道（八重山毎日新聞2008年1月19日に掲載）において、障害児教育実践センターの八重山の周辺離島への継続的な支援の必要性が取り上げられたこともあり、相談支援、学校訪問に加え、大学において定例で行っている事例研究会を出張して行う新たな取り組みを行った。第1回は外部相談員として山上雅子（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）氏の協力を得て、専任教員浦崎武、事例提供者として大学院生の武田喜乃恵で参加した。出張支援で行った事例研究会は、ひとりの子どもについての実態および支援方法を時間をかけて話し合い、考えることを目的としており、障害児教育実践センターで定期開催している事例を検討するスタイルを八重山に導入し、還元することをねらいとしている。

1) 石垣市

第1回は石垣市で教育相談会を10月31日、11月1日に開いた。実践事例研究会、学校訪問を10月

31日に行った。第2回は3月5日、6日（2009）に行った。

① 相談活動

相談会 10月31日

会 場：八重山教育事務所

相談者：8人

11月1日

会 場：八重山教育事務所

相談者：13人

② 教育研修会

実践事例研究会 10月31日

会 場：八重山教育事務所

参加者：21人

実践事例研究会 3月5日（2009）

会 場：八重山教育事務所

③ 学校訪問

学校訪問 10月31日

④ トータル支援教室

出前支援 3月6日（2009）

会 場：八重山教育事務所

2) 与那国町

① 相談活動

相談会 2月19日（2008）

会 場：与那国町中央公民館

② 教育研修会

講演会 2月20日（2008）

会 場：与那国町中央公民館

③ 学校訪問

学校訪問 2月19日（2008）

訪問校：与那国中学校、久部良中学校、
比川小学校、久部良小学校

(4) 学校、保育園訪問支援活動

本年は那覇市、宜野湾市を中心に学校、保育園の訪問支援を行った。保育園を含め9学校・園に訪問し相談を受けた。そのうち5園は定期継続の訪問支援となった。

(5) 他機関および附属小・中学校との連携支援

① 島嶼地域出張教育相談支援 八重山教育事務所との連携支援
教育相談会、学校訪問、実践事例研究会、トー

タル支援教室の出席

② 特別支援教育支援員養成支援 読谷村教育委員会との連携支援

トータル支援教室における特別支援教育支援員の実践力養成支援

③ トータル支援 浦添市立沢岬小学校との連携支援

トータル支援教室における子どもたちへの支援

④ トータル支援学級応用支援 沖縄市中の町小学校情緒障害特別支援学級との連携支援

トータル支援教室における取り組み（企画）を特別支援学級への授業応用実践研究

⑤ 連携支援 附属小学校との連携支援 校内委員会の実施、子どもの適応支援

・特別支援教育校内委員会の実施

日 時：4月10日、16時00分

参加者：5名（副校長、担任、養護教諭、関連の教員）

・発達に気になる子どもの適応支援、トータル支援教室への参加

⑥ 連携支援 附属中学校との連携支援 実態調査および校内研修の実施

・気がかりな子どもたちに関する実態調査

・現職教育研修会（特別支援教育について）の実施

日 時：7月10日、16時10分

3. 学生、院生教育活動

(1) 実践トータル支援活動

軽度発達障害をもつ子どもたちや気がかりな子どもたちとの活動を通して子どもたちとの関わり方や支援のあり方を学び、特別支援教育に貢献できる学生を育成することを目的として実践教育を行っている。実践トータル支援活動のなかで「障害児心理検査法」を受講している学生は心理検査法および子どもたちとの関わりから実態をつかみアセスメントができる実践力を学んでいる。「障害児臨床心理学」を受講している学生は集団支援に参加し、グループで集団支援活動を企画し、集団支援の実践および集団のなかで個と関わる能力を養う。院生においては「軽度発達障害者支援特

論」を受講すると担当する子どもの個別支援の実践力を養うことができ、さらに「特別支援教育特論B」を受講する院生は個別支援における関わりを整理し分析する能力を養う。当センターは子どもたちへの支援活動を通して実践力を備えて教育現場で活躍できる学生を育てる教育を行っている。

(2) 実践事例研究会

実践事例研究会において、院生が行った実践事例の報告を行い、特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、臨床心理士、医師、言語聴覚士、大学教員、院生、特別支援教育支援員などの参加によりコメントをもらった。

1) 実践事例検討会による院生への実践教育

第13回は障害児教育実践センターの専任教員が実践事例を報告した。第14回、第16回、第18回、第20回、第21回は大学院生が実践事例を報告し、参加者と事例について議論を行い、多面的な意見をもらった。

・第13回 実践事例研究会

発表者：琉球大学 専任教員

タイトル：『高機能広汎性発達障害をもつ生徒に対する校内特別支援活動の事例』

日 時：1月23日、18時30分

・第14回 実践事例研究会

発表者：琉球大学 大学院1年生

タイトル：『K君とのプレイルームでのかわりについて』

日 時：2月27日 18時30分

・第16回 実践事例研究会

発表者：琉球大学 大学院2年生

（那覇市立松島小学校 教員）

タイトル：『知的障害のある児童に対する校内特別支援教育の事例』

日 時：4月16日、18時30分

・第18回 実践事例研究会

発表者：琉球大学 大学院1年生

（南城市立大里南小学校 教員）

タイトル：『時計に興味があるA君—時計を書くことから時計を作ることへ』

日 時：6月18日 18時30分

・第20回（第3回特例）実践事例研究会

発表者：琉球大学 大学院1年生

コメント：神野秀雄（愛知教育大学教授）、
石川雅健（愛知学院大学教授）

タイトル：『T君とのプレイルームでの関わり』

日時：8月22日

・第21回 実践事例研究会

発表者：琉球大学 大学院2年生

（那覇市立松島小学校 教員）

タイトル：『小学校における特別支援教育の構築—教師の「とまどい」となじむ過程を通して』

日時：10月15日

2) 公開特別支援セミナー、出張沖縄・京都合同発達研究会による院生への実践教育
特別支援の実践研究報告は集団支援、個別支援、連携支援の各支援部門の担当者からの報告を行った。多面的な意見をもらった。スーパーヴァイズを受けた。

1. 「臨床活動・個別支援」研究報告

発表者：武田喜乃恵（琉球大学大学院）

Aタイトル：『小学男子児童に対する支援研究報告』

2. 「トータル支援・個別支援」研究報告

発表者：津波 佳和（沖縄県立鏡が丘養護学校

教諭・琉球大学大学院）グループ

：城間 園子（沖縄県立島尻養護学校教諭・琉球大学大学院）

Bタイトル：『中学男子生徒に対する支援研究報告』

発表者：新垣香代子（南城市立大里南小学校教諭・琉球大学大学院）グループ

Cタイトル：『小学男子児童に対する関わりの実際』

3. 「トータル支援・集団支援」研究報告

発表者：武田喜乃恵（琉球大学大学院）

グループ

瀬底 正栄（那覇市立松島小学校教諭・琉球大学大学院）

Dタイトル：『世界にひとつだけの傘とカップづくりを通して』

Eタイトル：『大学との連携による沖縄市立中の町小学校情緒障害学級の取り組み』

(3) センター専任教員の授業担当

センター専任教員は、障害児教育専攻の授業を担当している。平成20年度は障害児教育専攻の以下の授業を担当した。

3年「障害児心理検査法」

3年「障害児臨床心理学」

特別専攻科「軽度発達障害児の臨床心理」

大学院 「特別支援教育特論B」

大学院 「障害児臨床心理学特論」

大学院 「軽度発達障害者支援特論」

大学院 「障害児教育の実践研究V」

(4) センター専任教員の卒業論文、修士論文の指導

1) 卒業論文について

平成20年度においては、2名の障害児教育専修の学生の卒論指導を行った。2名はセンターの集団臨床活動にも参加している。また、卒業論文の作成に向けて、浦添市立沢岬小学校、沖縄市立中の町小学校情緒障害学級に支援員として実践を行いながら実践研究を行った。この2名の卒業論文のタイトルは以下になっている。

・描画へ没頭する自閉性障害児への支援

・情緒面のコントロールが苦手な児童に対する支援について

2) 修士論文について

修士論文に関しては、2名の大学院2年生（障害児教育専修）および1名の大学院1年生（障害児教育専修）の指導を行った。大学院生3名はセンターの個別支援活動および集団支援活動にも参加している。大学院2年生の論文の題目は以下になっている。

・小学校における特別支援教育システムの構築—支援に対する教師のとまどいに焦点をあてて—

・思春期の発達障害児に対する関係形成による発達支援—事例の変容過程に焦点を当てて—

3) 紀要について

2名の大学院2年生が、以下の紀要をまとめた。

・2009年3月（瀬底正栄、浦崎武）小学校における特別支援教育の構築—支援に対する教師の「とまどい」から— 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第10号

・2009年3月（武田喜乃恵、浦崎武）思春期の発

達障害児に対する関係形成による発達支援—事例の変容過程に焦点を当てて— 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第10号

発表者：高橋菜穂子（京都大学大学院）
タイトル：『重度の知的障害をもつ自閉症の女の子の児童養護施設入所後の変化』

4. 研究教育活動

(1) 実践事例研究会

一昨年10月から月1回定期、水曜日に琉球大学50周年記念館で院生、現職教員、コーディネーター、特別支援教育関係者および関連領域専門家が参加して実践研究を行っている。この実践事例研究会は対外的には沖縄発達研究会と呼び、長年の子どもの発達研究の成果が蓄積された京都発達研究会のスーパーヴァイズ等の協力を得ている。第4回は特例会として麻生武（奈良女子大学）氏、山上雅子（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）氏がコメンターとして参加された。また、第11回には浜田寿美男（奈良女子大学）氏、麻生武氏、山上雅子氏の参加により京都の発達研究会との共同研究会が開かれた。

本年度も第20回では神野秀雄（愛知教育大学）氏、第22回では京都発達研究会から山上雅子氏をお招きして開催された。また、第24回の特例事例研究会では、障害児教育実践センターの研究会メンバーが奈良女子大学に出張して第2回沖縄・京都発達研究会合同研究会が開かれた。関西地区以外にも東北地区、関東地区、中部地区からも参加者が来られた。

第9回の成人男性の過去の報告では、新聞記者が事例研究会の開催の意義を評価し、実践事例研究会に参加し記事を書かれるなど今後のより一層の発展が期待されている。

本年度の第24回（第5回特例）実践事例研究会（第2回沖縄・京都発達合同研究会）、および1月から12月までの事例の発表者、タイトル、参加者は以下のようにになっている。

- ・第2回沖縄・京都発達研究会合同研究会：第24回（第5回特例）実践事例研究会
京都発達研究会からの事例報告による研究会
日時：11月21日
場所：奈良女子大学
- 1. 児童養護施設における事例報告

沖縄発達研究会メンバーによるトータル支援活動報告会

日時：11月22日

1. 「臨床活動・個別支援」研究報告
発表者：武田喜乃恵（琉球大学大学院）
Aタイトル：『小学男子児童に対する支援研究報告』
 2. 「トータル支援・個別支援」研究報告
発表者：津波 佳和（沖縄県立鏡が丘養護学校教諭・琉球大学大学院）
グループ：
城間 園子（沖縄県立島尻養護学校教諭・琉球大学大学院）
Bタイトル：『中学男子生徒に対する支援研究報告』
発表者：新垣香代子（南城市立大里南小学校教諭・琉球大学大学院）グループ
Cタイトル：『小学男子児童に対する関わりの実際』
 3. 「トータル支援・集団支援」研究報告
発表者：武田喜乃恵（琉球大学大学院）
グループ：
瀬底 正栄（那覇市立松島小学校教諭・琉球大学大学院）
崎濱 朋子（沖縄市立中の町小学校教諭）
Dタイトル：『世界にひとつだけの傘とカッパづくりを通して』
Eタイトル：『大学との連携による沖縄市立中の町小学校情緒障害児学級の取り組み』
 4. 「トータル支援・連携支援」研究報告
F 大学との連携による支援員の実践力養成に対する教育行政の取り組み
宜保 健（読谷村教育委員会）
読谷村教育委員会特別支援教育支援員
- ・第13回 実践事例研究会
発表者：琉球大学 教員

- タイトル：『高機能広汎性発達障害をもつ生徒に対する校内特別支援活動の事例』
日 時：1月23日、18時30分
参 加 者：14名（特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、医師、大学教員、臨床心理士、県立総合教育センター指導主事、読谷村教育行政員、学生、院生など）
- ・第14回 実践事例研究会
発 表 者：琉球大学 大学院生
タイトル：『T君とのブレイルームでのかかわりについて』
日 時：2月27日 18時30分
参 加 者：18名（特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、医師、大学教員、特別支援教育支援員、学生、院生など）
- ・第15回 実践事例研究会
発 表 者：ゆうわ保育園 保育士
タイトル：『アスペルガー障害児への保育園における支援』
日 時：3月25日 18時30分
参 加 者：26名（特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、言語聴覚士、医師、大学教員、学生、院生など）
- ・第16回 実践事例研究会
発 表 者：那覇市立松島小学校 教員
タイトル：『知的障害のある児童に対する校内特別支援教育の事例』
日 時：4月16日、18時30分
参 加 者：18名（特別支援学校教員、小学校教員、保育士、臨床心理士、言語聴覚士、大学教員、医師、学生、院生など）
- ・第17回 実践事例研究会
発 表 者：沖縄市立中の町小学校 教員
タイトル：『お絵かきに没頭し人とのかかわりの薄いA児』
日 時：5月21日、18時30分
参 加 者：30名（特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、附属中学校教員、保育士、特別支援教育支援員、言語聴覚士、臨床心理士、大学教員、学部生、院生など）
- ・第18回 実践事例研究会
発 表 者：南城市立大里南小学校 教員
タイトル：『時計に興味があるA君—時計を書くことから時計を作ることへ』
日 時：6月18日 18時30分
参 加 者：18名（特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、臨床心理士、大学教員、大学院生など）
- ・第19回 実践事例研究会
発 表 者：沖縄市立泡瀬小学校 教員
タイトル：『言葉に遅れのある三角頭蓋術後もない1年生児童の少人数指導』
日 時：7月16日
参 加 者：17名（特別支援学校教員、小学校教員、附属中学校教員、保育士、医師、大学教員、院生など）
- ・第20回（第3回特例）実践事例研究会
発 表 者：琉球大学 大学院生
コメント：神野秀雄（愛知教育大学教授）、石川雅健（愛知学院大学教授）
タイトル：『T君とのブレイルームでの関わり』
日 時：8月22日
参 加 者：16名（特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、大学教員、院生など）
- ・第21回 実践事例研究会
発 表 者：那覇市立松島小学校 教員
タイトル：『小学校における特別支援教育の構築—教師の「とまどい」となじむ過程を通して』
日 時：10月15日
参 加 者：16名（特別支援学校教員、小学校教員、医師、保育士、幼稚園支援員、大学教員、院生など）
- ・第22回（第4回特例）実践事例研究会
発 表 者：県立島尻養護学校 教員、浦添市立中西中学校 教員
コメント：山上雅子（元京都女子大学教授、心理相談室ハタオリドリ）
タイトル：『T君とのブレイルームでの関わり』
日 時：11月2日

参加者：14名（特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、大学教員、院生など）

・第23回 実践事例研究会

発表者：琉球大学附属中学校 教員

タイトル：『琉球大学附属中学校の現状』

日時：11月19日

参加者：12名（特別支援学校教員、中学校教員、保育士、大学教員、院生など）

・第2回 沖縄・京都発達研究会合同研究会（場所：奈良女子大学）

第24回（第5回特例）実践事例研究会発表者

初日 発表者：京都大学 大学院生

タイトル：『重度の知的障害のある自閉症の女の子の児童養護施設入所後の変化』

日時：11月21日

参加者：60名（特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、臨床心理士、発達臨床心理士、言語聴覚士、福祉関連職員、大学教員、院生、特別支援教育支援員など）

発表者：京都大学 大学院生

2日目 発表者：琉球大学 大学院生

タイトル：『小学男子児童に対する支援』

日時：11月22日

参加者：40名（特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、臨床心理士、発達臨床心理士、言語聴覚士、福祉関連職員、大学教員、院生、特別支援教育支援員など）

・第25回 実践事例研究会

発表者：沖縄市立泡瀬小学校 教員

タイトル：『言葉に遅れがある三角頭蓋術後1年児童の少人数指導とかかわり』

日時：12月17日

参加者：12名（特別支援学校教員、小学校教員、大学教員、院生など）

(2) 実践研究公開報告

8月23日のセミナーにおいて実践トータル支援活動の成果について実践事例研究の報告を行った。実践トータル支援アプローチについて神野秀雄（愛知教育大学）氏、石川雅健（愛知学院大学）氏から貴重なコメントを頂いた。

(3) 国立大学障害児教育関連施設・センター共同研究

国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会の会員が連携研究者となり共同研究を行っている。平成20年度科学研究費補助金（基盤研究B、課題番号 20330194）、研究課題は『小学校教員養成プログラムにおける特別支援教育スタンダードの開発』である。7月12日～13日において、連携研究者第1回合同研修会および合同会議が開かれ、センター専任教員が出席した。

(4) 実践研究論文の作成

8月4日に実践研究公開の発表を行った事例を中心に実践トータル支援活動の実践の成果、実践事例研究会の検討事例に関する実践研究の成果を以下の論文にまとめた。

- ・2009年3月（浦崎武）広汎性発達障害児との共同性に基づく創作活動を通じた重要な他者との関係形成による発達支援 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第10号
- ・2009年3月（浦崎武，武田喜乃恵，崎濱朋子，瀬底正栄）発達支援が必要な子どもたちへの他者との関係性に焦点を当てた集団支援活動‘ツユコレ’琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第10号
- ・2009年3月（武田喜乃恵，浦崎武）思春期の発達障害児に対する関係形成による発達支援－事例の変容過程に焦点を当てて－ 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第10号
- ・2009年3月（金城明美，浦崎武）言葉に遅れのある1年児童の少人数指導とかかわり－ 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第10号
- ・2009年3月（宜保健，読谷村特別支援教育支援員，浦崎武）大学との連携による特別支援教育支援員の実践力養成に対する教育行政の取り組み

み 琉球大学教育学部障害児教育実践センター
紀要 第10号

(5) 発達研究会

毎月1回、大学院生、現職教員を対象に実践教育を行う上で基礎となる発達理論を学ぶ会を開いている。

(6) 定期刊行物の発行

定期刊行物として「障害児教育実践センター紀要」を発行している。2009年3月には第10号を発行した。実践支援セミナーにおける神野秀雄（愛知教育大学）氏の基調講演資料を掲載した。

(7) 研究資料の提供

- ・トータル支援教室の活動に関することや支援を受けている子どもたちとの関わりについて報告し、実践支援セミナーにおいて資料として配布した。
- ・実践支援セミナーにおいてトータル支援教室で行っている企画を学校で活用できるように指導案にして配布した。

(8) 助成金における研究

1) 財団法人琉球大学後援財団「教育研究奨励事業」

- ・第1回八重山出張支援を財団法人琉球大学後援財団「教育研究奨励事業」の助成を受けて行った。
事業名：地域発達支援活動および実践支援セミナー－実践トータル支援活動を通して－

実施期間：10月31日～11月1日

2) 教育学部共同研究推進経費

- ・第2回八重山主張支援を教育学部共同研究推進経費により実施した。
事業名：八重山教育事務所との連携による特別支援教育支援員の実践養成講座の構築
実施期間：3月5日～6日（2009）

5. その他の活動

(1) 国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会について

毎年度、9月に1度、日本特殊教育学会の開催中に障害児教育関連施設センター連絡協議会が開かれるが、今年は会場の教室が確保できず中止となった。

連絡協議会事務局による依頼を受けて公開講座の講演を行った。

- ・東京学芸大学公開講座 特別支援教育の基礎と実践 講師

タイトル：『関係性の形成による遊びを通じた発達支援』

日時：6月7日 13時30分～15時00分

会場：東京学芸大学

参加者：60人

(2) その他の社会的活動

センター専任 浦崎武

- ・名桜大学主催 教職員・学生対象 講演会

タイトル：『青年期の発達障害の特徴と支援のあり方』

日時：1月16日（2008） 10時～12時

会場：名桜大学

参加者：30人

- ・宜野湾市保育園巡回相談員
依頼期間 4月1日～3月31日（2009）
- ・那覇市教育委員会学習障害児等専門家チーム巡回支援員
依頼時期 5月16日～3月31日（2009）
- ・特別支援教育体制推進事業 島尻地区特別支援専門家チーム員
依頼機関 5月22日、1月19日（2009）
- ・県教育委員会 特別支援教育管理職研修 講師
開催日 7月3日（那覇教育事務所教頭会）、8月1日（中頭教育事務所教頭会）
- ・県教育委員会 カウンセリング実践講座（特別支援教育論）講師
開催日 7月11日、18日、24日、25日
- ・鏡が丘養護学校評議員
開催日 7月14日、11月25日、1月26日（2009）

- ・県教育委員会 免許認定講習 講師
開催日 8月6日
- ・第32回九州難聴・言語障害教育研究会 分科会
指導助言者
タイトル：『障害児のことばと自我の発達と社会性について』
日時：8月8日 9時00分～16時30分
会場：残波ロイヤルホテル
参加者：40人
- ・特別支援教育コーディネーター・スーパーバイザー養成研修会（教育相談の在り方について）
講師
開催日 8月12日
- ・島尻地区特別支援連携協議会委員
開催日 8月25日、1月19日（2009）
- ・那覇市教育委員会就学指導委員会委員
開催日 9月24日～3月31日
- ・沖縄特別支援教育研究会 記念講演講師
タイトル：『発達から見た特別支援教育のあり方』
日時：12月6日 10時～12時
会場：島尻養護学校 体育館
- ・沖縄発達支援研究会 保護者部会講師
タイトル：『沖縄の特別支援教育の現状と課題』
日時：12月16日 10時～12時
会場：南部子ども医療センター
- ・宜野湾市障害児等審査委員会委員
開催日 1月8日（2009）
- ・明治安田こころの健康財団主催沖縄講座 特別支援教育の今を考える シンポジスト
タイトル：『沖縄における特別支援教育の現状と課題』
日時：2月22日（2009）13時00分～17時00分
会場：カルチャーリーゾート
フェストーネ